

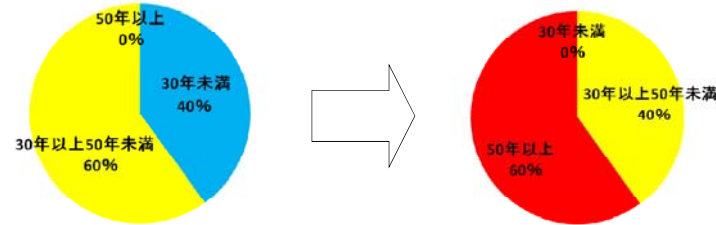
# 南伊豆町 橋梁長寿命化修繕計画

## 背景・目的

### ■背景

橋長15m以上の橋梁は70年代から80年代にかけて建設された結果、修繕や架け替えが集中的に発生し、財政を圧迫することが予想されます。

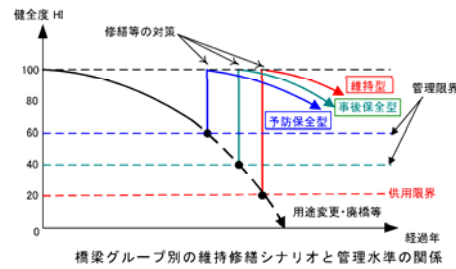
架設後の経過年数の推移(現在から20年後)



鋼橋の損傷(錆の発生)

### ■目的

橋梁の計画的な維持管理による予防保全型管理への転換。



計画的な修繕により耐用年数を延ばし、コスト削減を図ります。



コンクリート橋の損傷(ひびわれ)

## 修繕計画の内容

■橋梁の耐用年数を120年にするよう修繕計画を策定しました  
【橋梁の劣化および耐震補強工事に伴う修繕計画】

- 経年劣化による修繕工事
- 鋼橋の定期塗装
- 塩害対策修繕工事
- 耐震性向上の工事



支承腐食修繕



主桁塗装

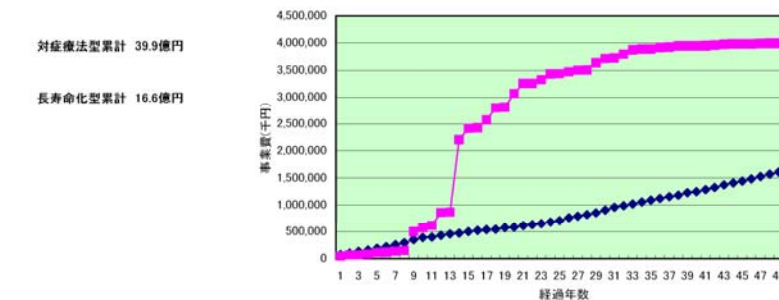
平成26年度からの50年間で:

**修繕に必要な費用 16.6 億円**

## 長寿命化修繕計画の効果

- 計画的に定期的な点検を実施することにより、橋梁の損傷が深刻化する前に 早期に発見し修繕を実施することで、利用者への安全性と信頼性を確保した道路サービスが提供される。
- 予防的な維持管理を実施することで、橋梁の長寿命化やコストが削減できます。

修繕をしないで架け替える場合の費用	39.9 億円
修繕をする場合の費用	16.6 億円
修繕によるコスト削減効果	23.3 億円 (約58%)



## 長寿命化のための取り組み方針

### 持続可能なマネジメントサイクルの確立

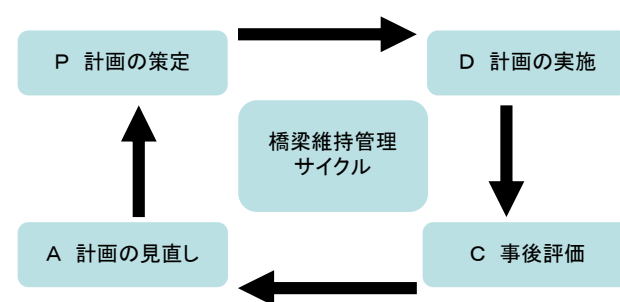
- 概略点検を原則5年ごとに行います。
- マネジメントサイクルを定着させます。

### 優先度付けによる橋梁修繕計画の策定と実施

- 優先度付けによる計画的な修繕計画を実施します。

### 日常的な維持管理による予防保全の取り組み

- 河川・道路パトロールにより異常の早期発見。



## 意見を聴いた学識経験者

本計画の策定にあたっては、学識経験者に助言をいただいています。  
山梨大学 土木環境工学科 杉山俊幸 教授